

市立池田病院 地域医療連携ニュース

今月は、呼吸器外科と、消化器外科での腹腔鏡下肝切除について、それぞれご紹介させていただきます。

対象となる患者さまがおられましたら是非ご紹介をお願いいたします。

呼吸器外科の紹介



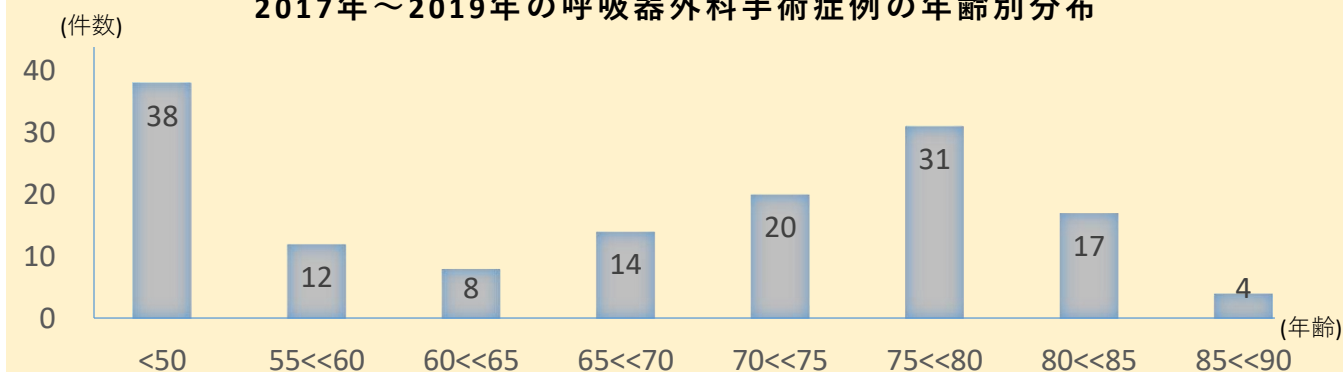
呼吸器外科
部長
須崎 剛行

当院では、さまざまな呼吸器疾患について、治療にあたっております。

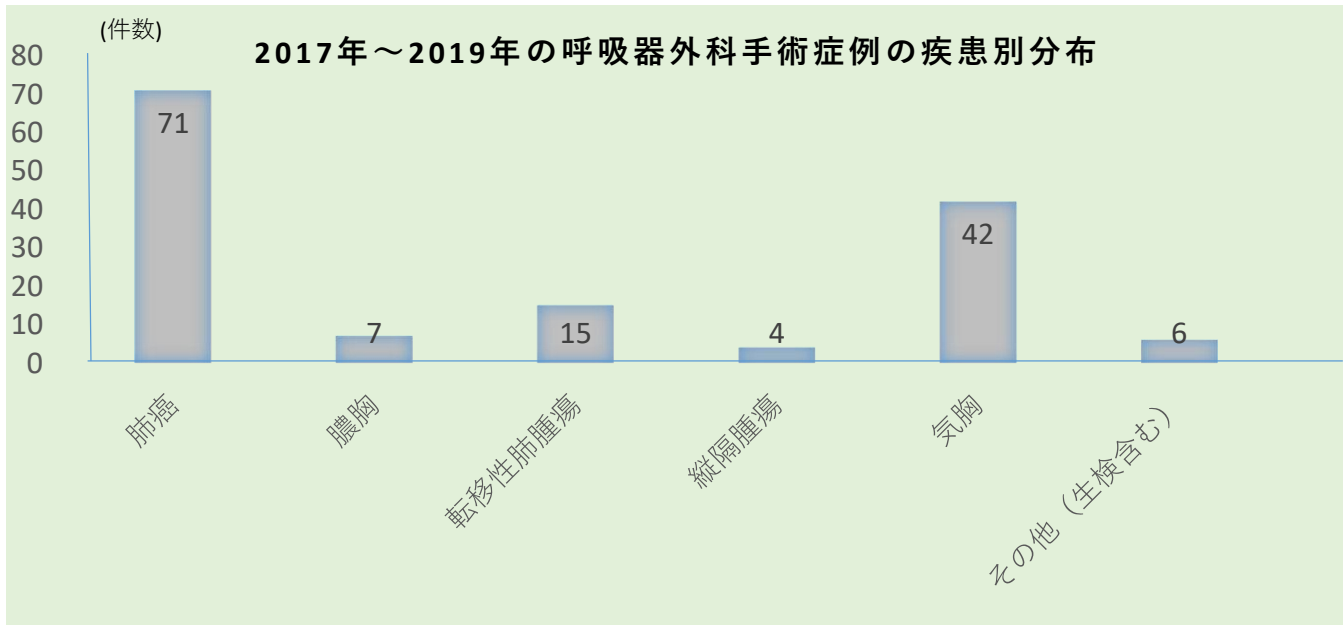
呼吸器外科は、その中の役割として、肺、縦隔、胸膜、胸壁、横隔膜の手術加療を行っております。対象疾患は、肺癌、転移性肺腫瘍や胸腺腫といった腫瘍性疾患から、内科的に治療困難な気胸、膿胸なども含みます。また、手術治療の対象とならなくとも、内科的に診断が難しい場合は、胸腔鏡を用いた組織生検も行っております。生検以外にも、肺癌や気胸のみならず、多くの疾患に胸腔鏡手術を積極的に適応しており、傷を小さくし、術後の疼痛をできるだけ軽減しております。最近では、全国的にも高齢者の肺癌患者に対する治療機会が増えておりますが、退院後の生活の質(QOL)とのバランスがとれるよう、患者さま一人ひとりに合わせた治療方針を提供できるよう努めております。

2017年～2019年の呼吸器外科手術症例の年齢および疾患別分布を以下にご提示いたします。自然気胸は10-30歳代の若年層に集中しているため、50歳未満の症例数が最も多い傾向にあります。一方で、手術症例数としては肺癌が最も多く、特に75歳以上の高齢者に手術する機会が増えてきています。耐術能に問題がなければ、高齢者であっても手術を選択肢としてよいと考えており、QOLと根治性のバランスから、肺を小さく切り取る手術(縮小手術)も検討いたします。

2017年～2019年の呼吸器外科手術症例の年齢別分布



2017年～2019年の呼吸器外科手術症例の疾患別分布



腹腔鏡下肝切除術について



消化器外科
部長
濱 直樹

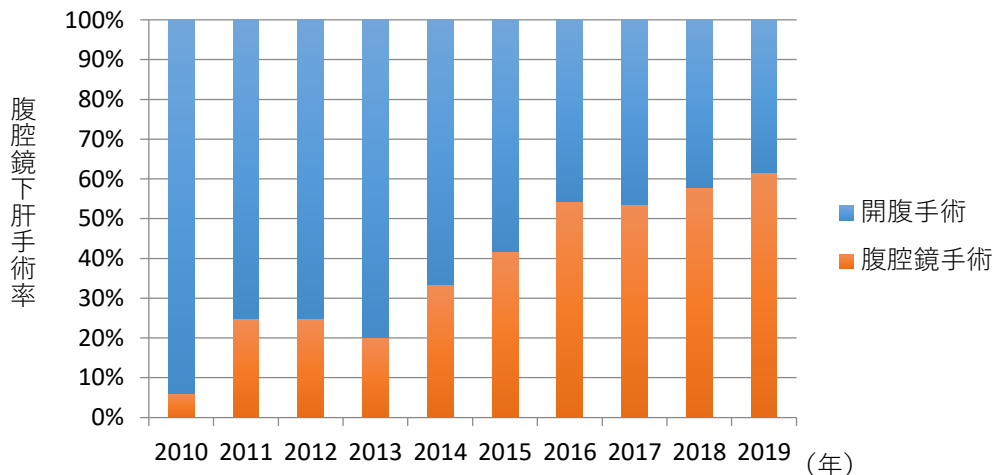
消化器外科では、2020年4月森本修邦部長の異動に伴い、濱直樹部長が就任、瀧内大輔副部長と2名が肝胆膵外科領域疾患の診療を行っております。肝細胞癌や転移性肝癌に対しての肝切除は、年間30例程度施行しております。

腹腔鏡下肝切除術は1991年に初めて報告され、低侵襲手術であることや短期的な手術成績が開腹手術に劣らないことが示されて、2010年に保険収載されました。当科においても、2010年より腹腔鏡手術を開始し、2019年までに118例の症例を経験しております。

再肝切除症例や多発症例なども、可能な限り腹腔鏡手術を検討し、最近では下図の通り半数以上の症例に腹腔鏡下肝切除術を行うことが出来ております。



消化器外科
副部長
瀧内 大輔

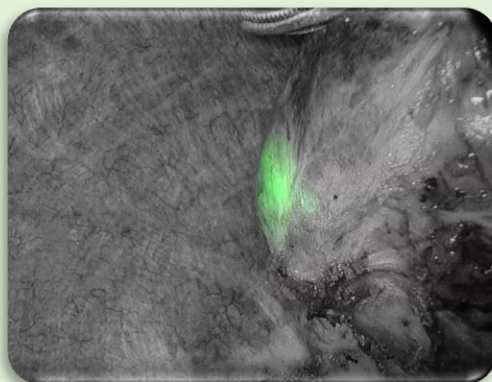


ICG蛍光法を用いた腹腔鏡下肝切除術

腹腔鏡下肝切除術において、肝硬変による肝臓の変形や腫瘍の局在、さらに再肝切除例では術後癒着などにより、術中超音波検査での腫瘍同定に難渋することもあります。

ICG蛍光法は、肝細胞癌にインドシアニンググリーン（ICG）が正常肝組織よりも長時間滞留することを利用した術中ナビゲーションであり、当院においても2019年から導入しております。ICG蛍光法は、腫瘍の同定だけでなく、肝離断面への腫瘍の露出を防ぐことにも有用であり、より確実に安全な手術の一助となっております。

肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝S7部分切除術（再肝切除例）



当院は地域医療の拠点病院として、今後も地域医療に貢献していく所存です。何卒宜しくお願いいたします。